

70年の画業を網羅する6年ぶりの展覧会
ジョルジュ・ルオー展

9月17日(土)～10月10日(月・祝) 会期中無休

ギャラリーためなが 東京

東京都中央区銀座7-5-4

☎03(3573)5368

11:00～19:00/日・祝～17:00

www.tamenaga.com

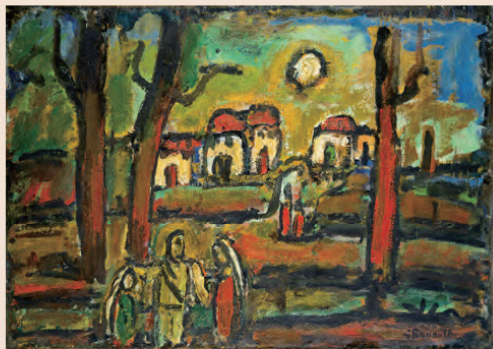


ジョルジュ・ルオー

1871年パリ北東部のラ・ヴィレット街に生まれる。はじめステンドグラス職人の徒弟になる。1890年エコール・デ・ポザールに入学、エリ・ドローネの教室に入る。92年ドローネの後任としてギュスターヴ・モローが教授に就任し、モローに師事。98年、モロー逝去。1903年モロー美術館初代館長に就任。サロン・ドートヌワの創設に参加。国民的画家となり、24年レジオン・ドヌール勲章受章。58年パリの自宅で死去。サン・ジェルマン・デ・プレ教会で国葬が営まれた。



《花瓶の花》114×78cm 油彩 1937年



《秋の夕暮れ》76×107cm 油彩 1962年

人間的、そして宗教的に豊かな響きを帯びた深い精神性の宿る作品で広く知られるフランスの画家、ジョルジュ・ルオーの個展を、ギャラリーためながが6年ぶりに開催する。モローに学び、野獸派や表現主義とも関わりながら、ステンドグラスの影響を強く受けた太い黒色の輪郭線と、鮮やかな色彩による重厚な質感の画風を確立。独特な色彩の厚塗りへのこだわりは強く、自らが完成と見なさない作品を世に出すことを良しとしなかったために何年間も、時には10年もの間絵の具を塗り重ねられたものも残されている。

道化師や裁判官を中心とした初期の作品、キリスト教をテーマとした風景画を多く手掛けた後期の作品など、主題や作風は微細に移り変わりながらも、人間の本性に焦点を当てた情熱的な制作活動を続け、86年間の人生を芸術に捧げた。

油彩を中心に初期から晩年までの70年に及ぶ画業を網羅した名品30点余りを展覧。まるで筆で彫刻したようなマチエールを間近に感じられる展示となる。

チェン・ジャン・ホン展

10月29日(土)～11月20日(日) 会期中無休

ギャラリーためなが 東京

東京都中央区銀座7-5-4

☎03(3573)5368

11:00～19:00/日・祝～17:00

www.tamenaga.com

11月5日(土)～27日(日) 会期中無休

ギャラリーためなが 大阪

大阪市中央区城見1-4-1 ホテルニューオータニ大阪1F

☎06(6949)3434

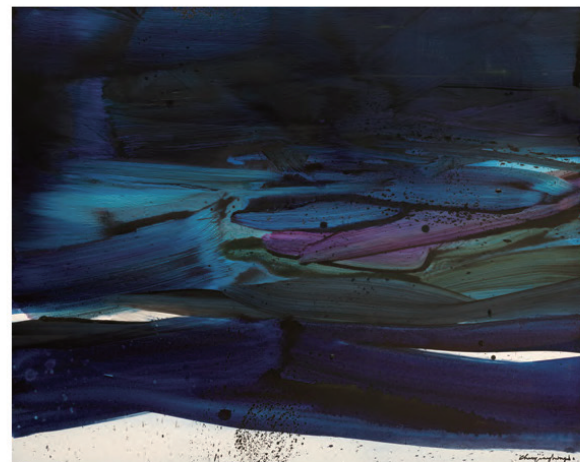
11:00～19:00

チェン・ジャン・ホン

1963年中国・天津生まれ。北京中央美術学院で中国伝統の水墨画を習得。87年パリ・エコール・デ・ポザールにて油彩画を学ぶ。アメリカ・インディアナ州スナイト美術館、ドーハ・マトハフアラブ近代美術館に作品收藏されるほか、パリ、東京、上海など世界の主要都市有数のホテルにも所蔵。



《鳥蓮》130×162cm 墨・油彩



《瀾》81×100cm 墨・油彩

中国伝統の水墨技法とヨーロッパで油彩画を学ぶ。東洋と西洋、伝統と革新の調和を追求し、墨と油彩を自在に操る独自の画法を確立したチェンの作品は、力強い筆勢の線描に、ほかじや飛沫で描く穏やかな色調が画中に広がり、静謐ながらもエネルギーギンギンな生命の崇高性を優美に表現する。

これまで花鳥画に連なる蓮の主題を中心に描いてきたが、近年は風景など日常から着想を得た様々なイメージの作品を加えて、抽象性の高い新境地を開拓。ダイナミズムと静止を表す筆触、絵具の厚みと滑らかさ、手つかずの余白など作品には静と動、明と暗柔と剛が共存する精神性に満ちた画面は、世界の美術ファンからも注目を集め続ける。東京展で約40点、大阪展で約30点の新作を出品。チェン・ジャン・ホンの現在地を示す。

東洋と西洋、
伝統と革新が調和する絵画